

## 祇園祭 1ヶ月の主な行事

日時	行事	概要
1～18日	<b>吉符入</b> きつぷいり	各山鉾町で関係者が集まり、祭りの無事を祈願し、諸事を打ち合わせる。吉符入の日は山鉾町によって異なる。
2日	<b>鬮取式</b> くじとりしき	前祭(17日)、後祭(24日)の山鉾巡行の順番を決めるため各山鉾町代表者が集まり、市長の立会いのもと鬮(くじ)を取る。
10日	<b>神用水清祓式</b> しんようすいきよはらいしき	神輿洗に使用する神事用の水を鴨川から汲み上げて、お祓いする。
	<b>お迎提灯</b> おもむかえちようちん	17時頃から、神輿を迎えるために万灯会会員有志が提灯を立てて行列する。
	<b>神輿洗式</b> みこしあらいしき	神輿3基のうち2基を舞殿に据え、中御座1基を四条大橋で清める。本社に還った後、3基の神輿を飾りつける。
12～13日	<b>前祭 鉾曳初</b> さきまつり ほこひきぞめ	建てた山や鉾がきちんと動くかどうかの試運転。祇園囃子の演奏や掛け声も本番さながらに、山鉾町がそれぞれの町内で山鉾を動かす。
13日	<b>前祭山昇初</b> やまかきぞめ	
13日	<b>長刀鉾稚児社参</b> ながなたほこちごしやさん	鉾には稚児が乗るのが従来の習わしだが、現在、生(いき)稚児が乗るのは長刀鉾のみ。この日は立烏帽子(たてえぼし)、水干(すいかん)姿の長刀鉾稚児が、騎馬にて八坂神社に参拝する。俗称「御位もらい」。
14～16日	<b>前祭宵山</b> よいやま	前祭で巡行する山鉾に提灯が灯され、祇園囃子がにぎやかに奏でられる。家宝の什器(じゅうき)や屏風などを美しく飾る家もあり、多くの人が通りにあふれ、街が祭り一色になる。
16日	<b>献茶祭</b> けんちやさい	裏千家御家元と表千家御家元が隔年のご奉仕。拝服席及び、副席が設けられます。
17日	<b>前祭 山鉾巡行</b> やまほこじゆんこう	長刀鉾を先頭に、鉾9基、山14基が各町を出発して所定のコースを巡行する。
	<b>神幸祭</b> しんこうさい	八坂神社本殿にて祭典が行われた後、祭神を遷した3基の神輿が氏子町内を渡御し、四条通にある御旅所(おたびしょ)にとどまる。
20～21日	<b>後祭 鉾曳初、山昇初</b> あとまつり ほこひきぞめ やまかきぞめ	前祭のときと同様、建てた山鉾が動くかどうかの試運転が行われる。
21～23日	<b>後祭宵山</b> よいやま	前祭と同様、後祭で巡行する山鉾が提灯で飾られる。四条通など大通りの歩行者天国はなし。
23日	<b>オハケ清祓式</b> おはけきよはらいしき	八坂神社の境外末社、又旅社(またたびしゃ)で、24日の還幸祭で祭神の依り代となるオハケ(特定の期間だけに設けられる神棚)に3本の御幣を立て、神を迎える準備がなされる。
24日	<b>後祭 山鉾巡行</b> やまほこじゆんこう	橋弁慶山を先頭に後祭の鉾1基、山9基が各町を出て烏丸御池に集結。所定のコースを巡行する。
	<b>花傘巡行</b> はながさじゆんこう	花傘を中心に、子ども神輿、武者行列、獅子舞、芸舞妓を乗せた曳き車など、約1000人が巡行。
	<b>還幸祭</b> かんこうさい	夕刻、御旅所を3基の神輿が出発し、八坂神社又旅社で祭典を行い、神輿に灯を入れて本社に還幸。御神霊を八坂神社に還す。
31日	<b>疫神社夏越祭</b> えきじんじやなごしさい	祇園祭の最後の神事。祇園祭が無事終了したことを神前に伝え、31日日疫神社の鳥居に付けた茅の輪をくぐって厄を祓う。